

⑦【単年度】津駅周辺道路空間における賑わいや連携の社会実験(三重県)

1. 実験概要、留意すべき項目

- 車線を6車線から4車線に減らし、そのスペースにキッチンカーの出店等、憩いの空間を創出し、駅前通りの道路空間再編に伴う歩行者の回遊性を検証する。
- ほこみちや路肩の柔軟な活用に関する有効な検証であり、参考事例となる可能性が高く、推奨すべき取組みとなること。

2. 実験内容、実験結果

①道路空間の利用方法のニーズ把握

- ⇒集客数は延べ約12,000人となり、昨年度(6,500人)の1.85倍
- ⇒横断歩道の歩行者数は、平常時と比較し、実験中の平日で約3倍、休日で約5倍

②駅の東西連携や回遊性の確認

- ⇒東西移動の歩行者数(地下道利用者数)は、平常時と比較し、実験中の平日で1.3倍、休日で1.9倍
- ⇒テーブル・イスの利用状況は、実験中の平均で約5割以上が使用されており、平日のランチ時間帯では約7割、休日のイベント時にはほぼ満席



津駅東口の状況



テーブル・イスの利用状況

3. 意見と検討、対応方針

意見	意見に対する検討、対応方針
駅前広場を含めた空間づくりが必要である。 長期的なビジョンを持って進めること。 地下道に視線の抜けがない。	検討委員会で議論する。
民間に引き継いでいく意識をすること。	管理運営する民間人材について地元協議会等で議論する。
時間帯別で空間を利用することを検討すること。 地上機器について、他の地域を参考にすること。	概略検討で対応する。

⑦【単年度】津駅周辺道路空間における賑わいや連携の社会実験(三重県)

4. 本格実施に向けた課題、今後の取り組み予定

課題	対応方針
将来的な占有者(ほこみち運営の組織)の課題	管理運営する民間人材について地元協議会等で議論
スペースが不足している 日差しを遮る木陰がない バリアフリー化ができていない	ニーズを踏まえ、令和6年度に概略検討を実施
電源の都合上、デジタルサイネージ設置位置に制限	効果的な広報に対応できるよう、令和6年度以降で具体的な検討に着手

5. 今後のスケジュール

- R6年度 歩道空間拡張の概略検討
- R7年度 歩道空間拡張の詳細検討
- R8年度 歩道空間の拡張工事

6. 制度改正、マニュアル作成、全国展開に向けた提案

- ・ 社会実験を段階的に実施し(計3回)、その都度県警と協議を確実に行うことで信頼構築に繋がり、スムーズに手続きが進む。
- ・ 県道だけでなく、周辺施設を活用することで、面的に賑わいの創出を行い、滞留機能が図れる。
- ・ 駅周辺の現在の利用状況やニーズを把握し、社会実験の内容(コンテンツに反映)を決定した結果、多くの方に利用されたことから、利用状況やニーズの把握が重要である。